“不寛容”な時代を考える

～やまゆり園障害者殺傷事件が貴方に問いかけるもの～

IN 越谷

「私のこどもも、殺すのですか？」 やまゆり園事件の加害者、植松聖死刑囚に問いかけたのは、障害のある息子を持つ報道記者だった。

死刑囚の思う「人権」とは何だったのか？

参加費：無料

12月1日（日）　時 間：13:30~16:30

会 場：越谷市中央市民会館１F　劇場

SNSの炎上や様々なバッシングなど、対立構造が先鋭化する今の社会では、息苦しさを感じるという声が多く聞かれるようになりました。なぜ、いま“不寛容な空気”が広がっているのでしょうか？ 映画「リリアンのゆりかご」（TBSドキュメンタリー映画祭2024参加作品）の制作ディレクター神戸金史氏をお招きし、記者が制作したドキュメンタリーの映像・音声を題材として、“不寛容な時代”の姿を参加者みんなで考える、”参加型”講演会です。

後援：越谷市　越谷市教育委員会

主催：埼玉政経セミナー

www.subarashiisaito.co.jp　TEL.07055420443（吉田）

お申込みフォーム

講師紹介

ＲＫＢ毎日放送 報道局 解説委員長 神戸金史（かんべ・かねぶみ）

1967年1月、群馬県生まれ。1991年に毎日新聞に入社直後、長崎支局で雲仙噴火災害に遭遇。噴火終息まで現地島原で取材を続け、95年に福岡総局に異動。東京社会部在籍中の2004年に、障害児の父の立場で『うちの子 自閉症児とその家族』を連載した。 ＲＫＢに転職した2005年、新聞連載を自らテレビ番組化した『うちの子 自閉症という障害を持って』を制作、ＪＮＮネットワーク大賞を受賞。

東京報道部長となり単身赴任を始めた2016年、やまゆり園障害者殺傷事件が発生。直後に、父としての思いをFACEBOOKに書いたプライベートな投稿が反響を呼ぶ。「障害児の父である記者」として、やまゆり事件の犯人・植松聖被告と接見を重ね、ラジオドキュメンタリー『SCRATCH 差別と平成』（2019年）をＴＢＳラジオと共同制作。放送文化基金賞で最優秀賞となったほか、日本民放連盟賞・文化庁芸術祭賞・早稲田ジャーナリズム大賞などで入賞した。

さらにテレビドキュメンタリー『イントレランスの時代』（2020年）では、やまゆり園事件やヘイトスピーチ、歴史の改ざんなどに共通する現代日本の不寛容（イントレランス）の姿を示し、２度目のＪＮＮネットワーク大賞。

このほかのドキュメンタリー作品に、山林地主によるダム建設反対闘争を描いた『攻防 蜂の巣城 ～巨大公共事業との戦い4660日～』（2000年）、大震災後のメディアのあり方を問うた『シャッター ～報道カメラマン 空白の10年～』（2014年）、俳優の東ちづるさんに密着した『まぜこぜちづる』（2021年）など。

会場案内

越谷市中央市民会館

〒343-0813 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目1番1号
電話 048-966-6622

埼玉政経セミナーとは

私たち埼玉政経セミナーは、「自立した協働のまちづくり」をめざし、目的にそった講座や勉強会を通じて知識や経験を蓄積し、まちづくりの輪を広げ、誰もが住みよい地域社会をつくりあげていくことを目指した活動をしています。会員は市民と、地方議員で構成されていて、フラットな立場での話し合いを行います。
主催する講座では、大学の先生、市民活動家、政治家、行政職員等など、テーマ に沿った専門家をお招きして、市民である私たち自身が地域の未来についてどう主体的に取り組むかを考え、話し合います。

昨年度の活動が、第19回マニフェスト大賞エリア選抜選出されました

会員募集！

埼玉政経セミナーでは、自分たちが今、そしてこれからの社会に必要だと思う様々な課題をテーマとしたシンポジウムや勉強会を企画しています。活動は月に1回の運営会議と、それに付随した様々な準備。誰かが独断で決めるのではなく、自分の希望や意見などをもって、時間をかけて話し合います。私たちはどんな未来を望むのか。そして、それはどのように実現していくものなのか。「誰かがやってくれる」ではなく、「私たちがやる」ためには仲間が必要です。ぜひ、私たちと一緒に活動しませんか？

会費：市民　2,000円　議員　5,000円（年間）
お問い合わせは下記URL　もしくは　電話（留守電有）でお願いします

埼玉政経セミナー　WEBサイト
HTTPS://SAITAMA-SEIKEI.COM/

お問合せ：070-5542-0443 (吉田理子（事務局）)